



六甲カトリック教会 教会報

四旬節を迎えて

今年は「灰の水曜日」が2月17日、この日から四旬節に入ります。復活の日を迎えるまで40日間の悔い改めのわざとして祈り、断食、施しが求められます。

コロナ感染症の激増による第二次の緊急事態宣言が出されました。さらなる会食自粛、三密回避は当然として、私たちキリスト者としては、いつもの年以上に深く、さまざまな課題に思いを致すことが大切なのではないでしょうか。いま医療の現場はコロナ感染症の対応で、医療崩壊ひいては医療壊滅などという言葉が叫ばれるようになってきました。命の選別（トリアージ）が現実の問題として立ち上がってきているようです。由々しき事態だと思えます。一昨年の教皇来日の際に力強く発せられたメッセージ「すべてのいのちを守るために」を思い起こしましょう。そして、ひたすら祈りを込めて四旬節を過ごし、なんとか明るいご復活を迎えたいと真に思います。（編集部）

2月の主日ミサ予定表

日	時	地区（グループ）
6日（土）	18時	どなたでも
7日（日）	7時半	どなたでも
	10時	第1グループ
	11時半	第2グループ
13日（土）	18時	どなたでも
14日（日）	7時半	どなたでも
	10時	第2グループ
	11時半	第1グループ
20日（土）	18時	どなたでも
21日（土）	7時半	どなたでも
	10時	第1グループ
	11時半	第2グループ
27日（土）	18時	どなたでも
28日（土）	7時半	どなたでも
	10時	第2グループ
	11時半	第1グループ

第1グループ
灘北1・北三田
灘北2・阪神
灘南・神戸西

第2グループ
灘西・中央
東灘北1
東灘北2・芦屋
東灘南

灰の水曜日ミサ 2月17日 7:00 10:00 19:00

※ミサの時間帯について予定表は流動的です。教会の最新情報にご注意ください。

六甲教会で長年主任司祭をつとめられたジョン・オマリー神父様が1月8日帰天されました。同14日に東京麹町イグナチオ教会で葬儀ミサが行われ、ライブ配信されました。藤原泰さんに神父様の思い出を語っていただきました。

オマリー神父様の思い出



1986年に神父様が着任されてから、2000年に桜井神父様に交代されるまで激動の期間だったと思います。旧聖堂の建て替え工事、工事中の阪神淡路大震災、復興時の献堂式、2年後創立50周年記念などです。神父様は信徒に頼み事をするのがとてもお上手でした。大らかなご性格で正直に頼まれました。結果はいつも「ハイいいでしょ」でした。

私たち夫婦にとってのかかわりは、1987年に始まった「結婚セミナー」を通してでした。当時教会での結婚式は大変盛んで、神父さまの在任中セミナーの参加者は1200組を超えていました。年一回開催されるクリスマス会が大勢の子供たちで溢れるのを大変喜ばれ、真っ赤なサンタ姿に変装され参加者をもてなされました。子供たちの喜びは大変なものでした。夫婦たちの主導でセミナーは進められましたが、「価値観」を話し合うところで神父様たちに支えて頂きました。毎回掲示されるポスターをご覧になって、ある時掲示された「子供を載せて荷車を引く夫婦」のポスターを見て、参加者に「これは一寸感心しません」と話し始められ、子供にも応分の役割を持たせ、家族は皆で力を合わせるものだと言説されました。その時ご自分の子供時代を顧みられ、ご一家が世界的不況に苦しまれたことを話されました。ご自分のことを話されたことはこの時が初めてでした。優しく大らかな神父様でしたが、ご自分は厳しい経験をされたのでしょうか。

神父様にお世話になった事を心から感謝します。天国でお目にかかれますよう祈りつつ。

(藤原 泰)

◆オマリー神父様の思い出のアルバムです。
初聖体、成人式、復活徹夜祭？いずれも古い
写真で日時は確認できませんでした。



インタビュー★防災委員会 堤 福生さん

阪神淡路大震災から早くも26年目を迎えました。"忘れたころにやってくる"天災に備えを怠らないよう、改めて注意を喚起したいと思います。防災委員会 堤 福生さんに、一問一答形式で六甲教会の防災体制について伺いました。

◆六甲教会における防災のコンセプトは？

——当教会では将来の東南海・南海地震被災を想定し、地震防災体制を構築することです。

◆今はどこまで進んでいますか？

——現時点ではコロナ感染対策が優先され、体制作りはまだスタートしたばかりですが、今後は火災、震災その他の災害の予防および人命の安全並びに被害の防止を図ることを目的に策定していきます。

◆防災グッズの内容と備蓄量については？

——食品：缶入りカンパン、アルファ米、保存用ビスケット、保存水。その他サバイバルブランケット、エアマット、簡易トイレを、避難者30名を想定してすでに準備・備蓄を行っています。

◆災害時の防災体制や指示系統は？

——主任司祭を「防災隊長」として、その下に、「防災隊長補佐」「情報連絡係」「避難誘導係」「救出・救護係」「設備点検係」の5部門を置き、体制を整えようとしているところです。ミサ中に地震が発生した場合は、先唱者のアナウンスと避難誘導係の誘導に従って避難していただくことになります。

◆地域における六甲教会の役割は？

——災害時の六甲教会の役割は、当面被害に遭われた信徒の方に一時的な避難場所を提供することを考えています。それ以外にどんな役割を担うかは、今後の検討課題です。

◆最後にもう一言どうぞ。

——新年度より、地震訓練を年1回実施していきますので、信徒の皆様にはご協力よろしく願いいたします。

(聞き手：広報部 大上尚子)



今月の聖人 2月

☆ 殉教・二十六聖人

秀吉のキリシタン禁教の時代に、壮烈な殉教をとげたとされる二十六人の信者は長崎の西坂で処刑されました。1597年2月5日のことです。6人の外国人宣教師と老若、12歳のこどもまで含んだと伝わる悲慘な大量殉教でした。記念碑が西坂にあり長崎県史跡となっています。この殉教で注目すべきことは、バチカンがいちはやくこの事実を知り、はやばやと聖人に加えている(1627年)ことです。フロイスらによってこの殉教の様子が伝えられたと推察されます。当時の日本では禁教破りの処刑とのみ認識され、尊い殉教とまでは思いが至らなかったのでしょう。西坂の史跡指定は1956年、記念碑の建立は1962年と日本での対応はずいぶん遅れています。

(詫洋一 記)



西坂公園の26聖人記念碑



みんなの広場

～備えあれば憂いなし～

「天災は忘れた頃にやってくる」は、科学者で随筆家の寺田寅彦の言葉とされています。が、彼の著作の中のどこにもそのような記述が見当たらず、弟子たちが「先生は日ごろ口にしておられた」と発表しています。寅彦はまた、彼の代表的な随筆ともいわれる「天災と国防」の中で、文明が進むほど自然災害の被害が増大することを指摘しています。

現代は、相次ぐ災害が各地に起こり、「天災は忘れる間もなくやってくる」と言われるようになりました。いざというときに備え、日ごろから準備しておく必要があります。「備えあれば憂いなし」。燃料・食料・水・灯りやトイレ・情報収集源の確保といったものから、家具やインテリア・避難経路・連絡方法等々たくさんありすぎて、実際に手を付けていないことが大半です（特に私のところは）。

一つだけ確実なのは、「人は必ず死ぬ」ということです。では、それに備えているでしょうか？人生の折り返し地点をとうに過ぎた私の答えは、やはり恥ずかしながら「No」です。

残された家族に言っておくべき事からは数多くあります。昨今のようなネット社会では、本人である認証は本人でなければダメな場合も数多く存在し、スマホひとつとってもパスコードがわからなければどうしようもありません。

準備しておきたい一番重要なことがありました！大切なひとたちへのメッセージです。

「今までありがとう」「おかげで幸せでした」「愛しています」「幸せに暮らしてください」そして何より「向こうで待っています。お祈りください。お祈りしています」こういったメッセージは今から用意しておいてもよさそうですね。（広報部 岩田聖代）

洗礼式



南米ボリビアで海外青年協力隊のボランティア活動をされている婦木理沙子（ふき りさこ）さんが六甲教会で洗礼を受けられました。コロナで現地から一時帰国の間に入門講座を受けていましたが、このたびタイミング良く出国の日程が決まり、急きょ、1月3日（日）主の公現の日にアルフレド神父さまから洗礼を授けられました。また新たな気持ちで赴任され、現地で数々の活動をされることと思います。一同の拍手を受けて顔を紅潮させながらご挨拶をされていました。

新成人おめでとうございます



1月10日（日）ミサの中で新成人祝福式が行われました。厳しい寒さと、新型コロナウイルス感染症の先も見えない状況の中、今年の新成人は8人ですが、出席されたのは大田湧也さん1人でした。ミサは主の洗礼の主日です。イエスがヨハネから洗礼を授かる時、「あなたは私の愛する子、私の心に適うもの」と、主の声が聞こえます。アルフレド神父様はイエスが新しい出発を授かる日に成人の日を迎え、新成人としても心の中に何か新しい変化を感じて歩いていって欲しいと話されました。



私は下手の横好きの趣味をいくつか持っています。「絵画」・「カメラ」・「ハワイアンバンド」・「男声合唱」それに「手話ソング」で、中でも最近は「手話ソング」に嵌まっています。始めたのは神戸シルバーカレッジの2年生の「学園祭」で見たのがきっかけで、その時演じられた曲「夢の坂道」に感動し、その後すぐ入部しました。手話ソングの曲のジャンルは「小学唱歌」から「ポピュラーソング」、「懐メロ」と幅広く、歌うことが好きな私にはピッタリ。その上、“認知症”防止にもなるので

はと思うのです。何故なら曲の歌詞を全部暗譜しないと動作が出来ないと、歌いながら手を動かすのが脳の活性化に役立つのではないかと思います。

時には手話ソングのメンバーと保育所や老人施設へ演奏に出向きますが、いつも歓迎してもらえるので、私の生き甲斐にもなっています。演じながら私もいずれは聴く方の側に回るであろうと思いながら。

このコロナ禍の中でも月2回手話ソング仲間(部員60名)と練習に励んでいますが、今は11月に終わったNHKの朝ドラ「エール」の主題曲に挑戦しています。コロナが収束すれば、教会でも「手話ソング同好会」を創ろうかなと思ったりしています。その節は是非ご参加ください。



(保育所訪問)

社会活動部

- ◆炊き出し・・・中央教会の活動センターを拠点とするお弁当作りに切り替えました。
- ◆ともしび会・・・コロナ感染拡大が収まるまで施設のこどもたちに届けるケーキは当分お休みします。
- ◆手芸の集い・・・緊急事態宣言が解かれるまでは、しばらくお休みします。

コロナ禍で社会活動はほとんど行われていない状況ですが、感染拡大に気をつけてできる範囲のことは、様子を見ながらやっていこうと思っています。毎月第3日曜日にイグナチオ喫茶で開かれていた「ふれあい広場」では、各支援団体のボランティアグループが支援グッズを通じて支援してきましたが、その機会がなくなり残念です。社会の谷間にいる人々のためにも一刻も早くコロナが収束してほしいと祈る毎日です。(社会活動部 井川伸子)

お知らせ

- ① 2月28日(日)の「春の墓参」は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、今回は共同での墓参は実施せず、納骨を希望される方の「納骨式」のみとする。
- ② 当日参加できるのは納骨をされるご家族のみとし一般の方の墓参は自粛をお願いしたい。
- ③ 当日は、神父様による個人墓地の祝別も実施しない。
- ④ 10月31日(日)の「秋の墓参」は、現時点では通常通り実施の予定。

第26回 越年越冬活動に参加して

長瀬三千子

第26回越年越冬活動が2020年12月28日から2021年1月4日まで、東遊園地において実施されました。この活動は野宿や生活困窮する人たちが年末年始にほっとできる場と生活を立て直すための相談ができる場を提供する活動です。期間中は晴天に恵まれ無事に終えることができました。きっと神様が見守って下さったのでしょう。

越冬越年実行委員会は神戸 YMCA 夜回りグループ・日本基督教団兵庫教区・バプテスト・ホームレス支援ネット・神戸公務員ボランティア・カトリック社会活動神戸センターで構成され、食事は各グループが交代で担当致します。例年は温かい炊き出しやコーヒーを飲みながら楽しいイベントを交え、皆でゆっくりと楽しいひと時を過ごしますが、今回は新型コロナ感染拡大防止対応として、大勢の人が集まり密になる炊き出し・お愉しみイベントは縮小・中止となりました。野宿や生活困窮する人たちの為の生活相談・法律相談・医療相談などのよろず相談は大切な取り組みなので従来通りに実施しました。現在、東遊園地では「こども図書館」の建設工事が始まっており、使用できる場所が半減したこともあって、今回は炊き出しに替えて食料品の配布を行いました。ボランティアの募集は行わず、実行委員会のスタッフと各グループのボランティア10名と限定し、密にならない少



数での実施となりました。

一日のスケジュールは10時から会場の設営、配布する食料品の袋詰めが始まり、準備ができ次第スタートです。利用者はまず入り口で検温、手指の消毒を済ませてから食料品を受け取り、その場では食べないで持ち帰って頂きました。相談のある方は各ブースで専門の方にじっくりと話を聞いていただき解決の道を探ります。NHKのニュースや、神戸新聞の報道を見て相談に来られる方もおられました。1時半頃にはほぼ配布を終え、2時には撤収し解散となります。

炊き出しに代わる配布食料品はお弁当・カップ麺・お握り・味噌汁・パン・バナナ・リンゴ・お菓子などです。今回、コープ神戸から6000個のおせち料理具材の提供を頂き期間を通して配布致しました。数の子・エビ・棒鱈・ぶり・かまぼこ・伊達巻・煮しめ等々お正月らしい嬉しいおみやげ付きでした。利用者数



は、初日の28日は生活保護費支給日だったので80人弱でしたが、日を追うごとに増え、170人を超え慌ててお握りを買いに走るという日もありました。平均して150人前後の方が利用されました。野宿の方は減ってきていますが、生活困窮している方が増えてきていると感じました。

「楽しいイベントがなくてちょっと寂しいね」というおじさんのコメントがニュースで流れていましたが、次回の越年越冬活動の頃、コロナは終息しているのでしょうか？社会状況はどのようなになっているのでしょうか？東遊園地は炊き出しができる状態でしょうか？年に一度のささやかな楽しみの時と場所がなくなることを願っています。

◆おきみやげ（高校時代のおもいで）◆

風が実に厳しく冷たい。教会の木々がすっかり丸坊主になった。毎朝の落ち葉掻きに、修行として多くの方々が励んでくださった、ご苦労様でした。しかし春遠からず。何と細枝を見直すと、小さなツボミがみっちり付いているではないか。大自然は春の出番を待ちわび、着々と備えている。一番乗りは、水仙なのか梅なのか。しかし私は寒風に降参して、もっぱら部屋の中で読書に明け暮れている。本棚に古臭い装丁の本を見つけ、開いてみると六甲学院の卒業アルバムではないか。ページをくりながら、すっかりタイムスリップしてしまった。その見開きには、武宮隼人神父が墨で「無一物」と書いてくれた。彼はほとんど素人であったが初代校長に任命され、1938年に六甲学院が創立された。開校の当初に未曾有の水害に見舞われ、校舎の中に土砂が流れ込み甚大な被害を被った。制服は海軍士官の軍服をモデルに、丸刈りの坊主頭に制帽をかぶり風呂敷を小脇に抱える姿であった。夏冬を問わず上半身裸で中間体操が行われ、また短パン・裸足で便所掃除の当番が回ってきた。朝礼時の校長の訓話は時に一時間以上に及び、生徒が途中で倒れることも稀ではなかった。訓育は厳しく、殴る・校庭を十周する・正解を300回書くなどの体罰も珍しくなかった。六甲山を一周する60キロ近い強歩会では中1から高までの全校生が参加し、各所で母親たちの手厚い声援を受け、着順でも記録でもなく皆の完走が重視された。クリスマスには、真夜中12時からのミサ前に聖劇が演じられ、芸達者の生徒たちが熱演した。ミサ後は各教室で石炭ストーブを囲んでクッキーや熱いココアのもてなしがあり、電車の始発まで楽しく過ごした。編入した高1の時から、弁当を食べながらクノール神父の乱雑を極めた部屋で公教要理の話を聞き、二年余り後に洗礼を受けた。

高3の夏休みに三泊四日の黙想会が売布で開かれ、司祭になることを決めた。イエズス会の会員は誰も何も言わなかったが、どれほど内心で喜ばれたことだろう。その当時、六甲学院の信者は下校時に好んで教会に寄り道して、聖堂訪問するのが常だった。またマリア会という信心グループが盛んで、土曜日の朝は学校の聖堂でミサがあり、聖母月の5月には、屋外の小聖堂でロザリオの祈りもあった。

私は附属中学からの編入で（総勢3人）、あまりの変化に戸惑いなじめぬことも多かった。同級生には、平均点が92点という怪物が二人もいた。高2になって成績順のクラス編成になり、一学期はA組だったが二学期にはB組に自分独りだけ落とされた。附属中では幾何という学科はなく、試験の前晩には徹夜で頑張ったが、結果はたしか7点で丸暗記は通じなかった。山岳部に入り多くの友人に恵まれた。11日間の立山合宿に備えて、重い砂袋を担いで月一の訓練があった。また真っ暗闇の中で夜間登山もあり、また体育祭の当日に校舎の屋上からザイルを使って派手に舞い降りる部員もいた。どういうわけか、当時は数多くの仇名が大手をふるっていた。一つのヨスガ・覚えとして挙げておこう。七面鳥、赤鬼、坊主、ホラ、スカタン、子ガンモ、パンツなどなど。

わずか3年間の高校時代の思い出であるが、人と人との何でもない関り、ありきたりの出来事も、計り難い影響を生涯に及ぼすことになる。そういう意味では、今は亡き先輩からも生きて働く同輩からも多くの重たい置き土産を戴いて、私がいまここに在り、このように行い考えているのだ。武宮神父の置き土産の一つとして、私は10分前に現場に赴き、定刻に始め定刻に終わることを旨としている。高校生、まさに畏るべし。

中村健三 合掌

【 2021 年 2 月予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	主の奉献	福者ユスト高山右近殉教者			初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 日本26聖人殉教者 ◎東灘北2・芦屋	結婚準備セミナー①
7	8	9	10	11	12	13
年間第5主日 ◎日曜班				世界病者の日 教会受付休み		結婚準備セミナー②
14	15	16	17	18	19	20
年間第6主日 新教会建設献金の日			灰の水曜日 ミサ 7:00 10:00 19:00 四旬節中、四旬節 愛の献金		◎灘北1・北・三田	結婚準備セミナー③
21	22	23	24	25	26	27
四旬節第1主日	聖ペトロの使徒座	教会受付休み			十字架の道行き 10:00 ◎灘北2・阪神	結婚準備セミナー④
28						
四旬節第2主日 春の墓参			◎は掃除当番地区です。			

訂正・1月号第3頁「ご聖体の顕示」の写真右の説明は、正しくは「聖体賛美式」です。

- ・1月号「今月の聖人」聖パウロの文中最後から2行目、「聖パウロが守護神とされ、」という表記は守護神を守護聖人と改めます。

【信徒動静】

【洗礼】 おめでとうございます		【帰天】 永遠の安息をお祈りいたします	
1月3日	プリスキラ 婦木理紗子	1月3日	マルガリタ マリア 新里シズエ
【転入】 これからどうぞよろしく		1月5日	マリア 椎山美保子
1月15日	ジェラルディン ラファエル 山本愛弓	1月12日	マリア モニカ 薮下八重子
		1月12日	鳩山晏子
1月22日	マリア マグダレナ 板倉由美	1月19日	マリア インマクラータ 京極千穂

次回3月号の発行は、2月27日(土)です。 原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。皆様からの原稿をおまちしております。あわせてご意見もお寄せください。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp	六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会	
	〒657-0061	神戸市灘区赤松町3-1-21
	電 話	078-851-2846
	F A X	078-851-9023
	E - メ ー ル	renraku@rokko-catholic.jp
	発行責任者	アルフレド・セゴビア
	編 集	広 報 部